

# 公益財団法人平野政吉美術財団

## 平成28年度事業報告

### <総括>

平成28年度の事業については、当財団の目的に沿い、平野政吉コレクション、および藤田嗣治作品の展示公開、教育普及活動、および調査研究を行った。

秋田県立美術館の施設管理については、指定管理者として適切に行った。

- 展示公開事業については、常設展の他、企画展を3回、特別展を2回、開催した。  
当財団として初めて開催した現代アート展「異界をひらく～百鬼夜行～」は「異界」をテーマに、第一線で活躍する現代アーティスト13人の作品を展示した。秋田初公開の作家や作品、また同時代の深層を見据える主題は、新しい来館者を掘り起こした。続いて開催した「斎藤真一 ～赫に秘めた想い～」展は、越後髻女を描き漂泊の悲しみを見つめた画家・斎藤真一の作品を公益財団法人出羽桜美術館から借用しての個展だった。この二つの特別展は、どちらも予想を超えた来館者数で、来館者の年齢層にも変化が見られた。美術館へ足を運ぶ人たちの幅を広げた展覧会となった。  
企画展の「平野政吉コレクションの精華」と「風景のゆくえ」は、2013年の秋田県立美術館の移転以来、当財団所蔵作品の日本初期洋風画、明治洋画をまとめて展示した初めての展覧会だった。秋田県立近代美術館との連携事業である企画展「藤田嗣治 無限に深い線」は、藤田嗣治の人物デッサンと、ビュランという技法の版画を展示することにより、藤田の線の表現力に着目する展覧会で、藤田ファンを中心に好評だった。
- 特別展の「異界をひらく～百鬼夜行と現代アート～」と「さすらいの画家 斎藤真一 ～赫に秘めた想い～」、および企画展「藤田嗣治 無限に深い線」に関しては、テレビコマーシャルを放映、また特別展については、リムジンバス広告を実施するなど広報活動に力を入れた。その結果、各展覧会の集客に効果があった。「異界をひらく～百鬼夜行と現代アート～」展は、NHK教育テレビ日曜美術館のアートシーンに取り上げられた。
- 教育普及事業としては、特別展に関連し、作品を出品していただいた美術館の学芸員による講演会を1回、現代アーティストを招いての講演会を1回実施した。トークショーは特別展関連で2回実施した。「異界をひらく」展の出品作家である日本画家・松井冬子を招いてのトークショーは盛況で、制作の核心に迫る内容も好評であった。美術館教室、ワークショップをあわせて7回実施した。ギャラリートークについては、企画展・特別展を学芸員が担当し、それぞれの展覧会会期中、2回もしくは3回実施した。《秋田の行事》について解説する定例ギャラリートークは月1回、および竿燈期間に実施した。
- 調査研究活動としては、平成29年度に当館で開催される特別展「レオナルド・フジタとモデルたち」の図録において、論文の寄稿、作品解説の執筆、藤田嗣治年譜の作成を担当した。新聞、雑誌への寄稿、および講演会において、学芸員が、展覧会に関連する調査研究成果、および藤田嗣治に関する研究成果を発表した。
- 博物館実習を10月および11月に実施した。秋田公立美術大学3年生を5名受け入れ、5日間実習を行った。
- 美術ホール運営事業は、秋田県主催、秋田公立美術大学主催などの展覧会が多く、比較的規模が大きいこれらの展覧会へは協力的に対応した。
- 売店事業は、来館者へのサービスの一貫として、鑑賞をより豊かなものにするため、

業者への委託販売とインターネットでの販売を展開した。

## I 展示公開事業

### (1) 常設展示事業

#### 常設展 平野政吉コレクションⅠ

- 1 会 期 平成28年4月1日(金)～平成28年7月12日(火)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションから、藤田嗣治が妻・マドレーヌへの想いを込めて描いた作品を展示した。
- 4 入場者数 10,978人

#### 常設展 平野政吉コレクションⅡ

- 1 会 期 平成28年9月8日(木)～平成28年11月6日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションから、マドレーヌをモデルにした作品、子どもを描いた版画などを展示した。
- 4 入場者数 9,073人

#### 常設展 平野政吉コレクションⅢ

- 1 会 期 平成28年11月9日(水)～平成29年2月5日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションから、《北平の力士》や《五人女》、《吾が画室》など、藤田の1930年代の代表作を中心に紹介した。
- 4 入場者数 10,033人

#### 常設展 平野政吉コレクションⅣ

- 1 会 期 平成29年2月8日(水)～平成29年4月16日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションの中から、リオ・デ・ジャネイロの街頭を描いた色彩豊かな作品群や、アトリエを描いた作品を紹介した。
- 4 入場者数 3,131人

### (2) 企画展示事業

#### 企画展 平野政吉コレクションの精華

- 1 会 期 平成28年4月1日(金)～平成28年7月12日(火)
- 2 会 場 ギャラリー1・2
- 3 内 容 平野政吉コレクションの中から、日本初期洋風画、明治洋画、西洋絵画の名品を紹介した。
- 4 入場者数 10,978人

#### 企画展 (秋田県立近代美術館連携展) 藤田嗣治 無限に深い線

- 1 会 期 平成28年11月9日(水)～平成29年2月5日(日)
- 2 会 場 ギャラリー1・2

- 3 内 容 群像大作制作を前に描かれた人物デッサン、妻・マドレーヌをモデルとしたデッサン、また平野邸で描いた墨画などの藤田作品を展観。あわせて、ジャン・コクトーの日本滞在記に藤田が挿絵を寄せた《海龍》を、所蔵家から借用して紹介した。
- 4 入場者数 10,033人

#### 企画展 風景のゆくえ

- 1 会 期 平成29年2月8日（水）～平成29年4月16日（日）
- 2 会 場 ギャラリー1・2
- 3 内 容 平野政吉コレクションの風景画を、風景表現の変遷というテーマで展観。各時代の作品を展示するとともに、眼鏡絵などレンズを通して見る特殊な絵画も紹介した。
- 4 入場者数 3,131人

### (3) 特別展示事業

#### 特別展 異界をひらく－百鬼夜行と現代アート－

- 1 会 期 平成28年7月16日（土）～平成28年9月4日（日）
- 2 会 場 ギャラリー1・2 県民ギャラリー
- 3 内 容 展覧会では「異界」をテーマに、いにしえより繰り返し描かれてきた『百鬼夜行絵巻』『付喪神記』とともに、現代アーティスト13人（天野喜孝、石田徹也、岡本瑛里、金子富之、鴻池朋子、田村一、奈良美智、藤浩志、真島直子、松井冬子、三瀬夏之介、山口晃、山本太郎）の作品を展示した。現代アートが見据える恐ろしくも美しい世界を7つの章立てで構成、現代人が見失ってしまった「異界」を全展示室において展観した。半獣という曖昧な存在が襖に翼をひろげる鴻池作品にはじまり、あの世とこの世、狂気と正気、夢と現の境をめぐる山本、三瀬、岡本作品が誘う県民ギャラリーでは、現実と異界の狭間を現出する藤浩志と真島直子がインスタレーションを展開した。大壁画ギャラリーでは、心が蝕まれていく不安や孤独、痛み、哀しみを描いた石田作品が若い来館者の心を捉えた。また、藤田嗣治が少女を描いた版画作品と奈良美智のアクリル絵画を並べて展示、その表情に見られる共通性が来館者を惹きつけた。3階ギャラリー2では、『百鬼夜行絵巻』と現代の人気作家・天野喜孝《百鬼夜行》を紹介した。今をときめく松井と山口の《九相図》を並べ、妖怪や神仏を描く金子作品で構成したギャラリー1では、見る人に自分の心の闇と向き合うきっかけをつかった。20～40代の若い来館者が多く、アンケート提出数も多かった。
- 4 入場者数 16,382人

#### 特別展 斎藤真一 ～赫に秘めた想い～

- 1 会 期 平成28年9月8日（木）～平成28年11月6日（月）
- 2 会 場 ギャラリー1・2
- 3 内 容 斎藤真一は、盲目の女性旅芸人を描き、漂泊者の哀しみを見つめた画家である。展覧会では、「越後瞽女日記」、「さすらい」、「明治吉原細見記」をテーマにした斎藤真一作品に、文筆家としても活躍した画家の言葉を添えて紹介した。「越後瞽女日記」では、斎藤が十数年かけて越後瞽女を取材、記録した絵日記、瞽女たちの哀しみや人間の根源的な尊さを「赫」で表現した油彩画を展観した。「さすらい」では、郷愁を求めさすらったヨーロッパの街角や、旅芸人を描いた作品を展観。「明治吉原細見記」では、儂い人生を送った遊女たちが暮らした明治吉原の風景画を展示した。県内外から多く

の人々が来館し、さすらう人々の孤独と画家の寂寥の想いの響き合いを堪能した。また、斎藤が瞽女を知るきっかけをつくった藤田嗣治との交流を紹介したことへの反響も大きかった。

4 入場者数 9,073人

※同時開催の展覧会の入場者数は、各々表記した。

## II 教育普及事業

### (1) 講演会等

#### 講演会「ニッポン画—過去と現在・未来をつなぐ技術」

- 1 実施日 平成28年12月10日(土)
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 秋田公立美術大学准教授 山本太郎氏
- 4 内容 特別展「異界をひらく—百鬼夜行と現代アーター」に関連して、ニッポン画家・山本太郎氏が、古典技法を駆使して現代の風俗を描くスタイルが「現代の琳派」と評される作品の数々について、そのモチーフ、物語、制作にまつわるエピソードなどによって解説した。的確な語り口と独特の感性で紡ぐ言葉が参加者を惹きつけた。参加者の年齢層は幅広く、質問を受け付けた際には、ニッポン画をはさんで、日本画に対する意識の違いなどが明確になる活発な意見交換が行われた。

5 参加者数 43人

#### 講演会「石田徹也をひらく」

- 1 実施日 平成28年7月23日(土)
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 勝山滋氏(平塚市美術館学芸員)
- 4 内容 特別展「異界をひらく—百鬼夜行と現代アーター」に関連して、平塚市美術館の学芸員・勝山滋氏が、心が蝕まれていく不安や孤独、痛み、恐怖や哀しみを描いた石田徹也(1973~2005年)について講演した。石田は、13人の現代アーティストのなかで唯一、他界している作家である。社会の歪みを現実の中に落とし込み、現代の不安や孤独を表現する一方、画面にゆるキャラを登場させるなどウィットやユーモアにも富んでいた石田作品を解説した。県外からの参加者もあり、石田への注目度の高さがうかがえた。死後10年経って魅力を増す石田ワールドを堪能できた講演会であった。

5 参加者数 50人

#### トークショー「松井冬子アーティストトーク 美術の構築」

- 1 実施日 平成28年8月6日(土)
- 2 会場 カフェラウンジ
- 3 講師 アーティスト 松井冬子氏(聞き手:学芸員)
- 4 内容 特別展「異界をひらく—百鬼夜行と現代アーター」に関連して、出品作家のひとりである日本画家・松井冬子氏によるアーティストトークをミュージアム・ラウンジにて開催した。恐怖や狂気、痛みなどを自己分析的に追究する松井氏は、花や幽霊、女の身体などを題材として、絹本に岩絵具という古典的な技法で描く作家である。「美術の構築」と題したトークでは、出品作である《終極にある異体の散在》、《應声は体を去らない》、《転換を繋

ぎ合わせる》、《健全な自己治癒の方法》のほか、人体に興味を持ち、デッサンや下図などに時間をかける制作過程などについて語った。また、「女性と雌しか描かない」、「内臓は描くが血は描かない」などの信条を披露した。恐ろしくも美しい松井氏の世界観あふれるトークがファンを楽しませた。

5 参加者数 78人

#### トークショー「父・齋藤真一を語る」

- 1 実施日 平成28年9月25日（日）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 齋藤裕重氏（聞き手：学芸員）
- 4 内容 特別展「齋藤真一～赫に秘めた想い～」に関連して、齋藤真一のご子息である齋藤裕重氏を講師に迎え、トークショーを開催した。藤田嗣治に教えられた東北で瞽女の存在を知り、越後で瞽女と出会い、旅をして描き続けたことなど、父・齋藤真一の真摯な姿を、映像を交えて語った。また、作品のモデルをつとめ、親交もあった女優・金澤碧氏による朗読「ひとり、かたり」を上映。齋藤の想いのこもった言葉と作品画像とともに、漂泊者の果てしない孤独、人間の哀しみを表現したその世界観を堪能するひとときとなった。

5 参加者数 34人

## (2) 美術館教室・ワークショップ

#### ワークショップ「おりがみ建築と美術館探検」

- 1 実施日 平成28年6月12日（日）
- 2 会場 レクチャールーム、大壁画ギャラリー
- 3 講師 秋田県立大学准教授 込山敦司氏
- 4 内容 藤田嗣治と平野政吉が夢見た「まぼろしの美術館」、三角屋根の旧秋田県立美術館、そして現在の美術館。《秋田の行事》のための3つの美術館の光と形の秘密について、秋田県立大学の込山敦司准教授のレクチャーを聞きながら現在の美術館を見学。その後、まぼろしの美術館の折り紙建築（とびだす建物絵本）を作成した。子どもから大人まで、幅広い年齢層の人々が、楽しんで参加していた。

5 参加者数 18人

#### ワークショップ「妖怪地図をつくろう」

- 1 実施日 平成28年8月21日（日）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 金子富之氏（日本画家）
- 4 内容 東北に住み、東北に根ざした伝説をもとに妖怪を描く日本画家・金子富之氏を講師にした子ども向けのワークショップ。参加者が思い思いにつくっていったマインド・マップには、仕事、学校、子育てなどそれぞれの日常生活や体験・経験から生まれた言葉が繋がれていった。恐怖や不安をあえて描くことで、自らの心と向かい合うことができたという感想が多く、好評だった。

5 参加者数 25人

#### 美術館教室「手話による作品鑑賞」

- 1 実施日 平成28年10月9日（日）
- 2 会場 大壁画ギャラリー、3階ギャラリー
- 3 講師 学芸員

4 内 容 《秋田の行事》と平野政吉コレクション、および特別展「さすらいの画家 斎藤真一～赫に秘めた想い～」の展示作品について、当館学芸員が手話通訳者を介して解説を行った。また、手話を通して、参加者同士が交流する場ともなった。

5 参加者数 15人

#### 美術館教室「藤田嗣治が惹かれた踊りと調べ」

1 実施日 平成28年10月23日（日）

2 会 場 大壁画ギャラリー・県民ギャラリー

3 講 師 学芸員

4 内 容 藤田嗣治の随筆「雪に埋れる町」（『随筆集 地を泳ぐ』所収）と壁画《秋田の行事》の関連を紐解く解説を学芸員が行った。その後、随筆の関連部分を谷地祐司（劇団はちのす）が朗読し、藤田が観た踊りと同じ演目を鈴木香織社中が披露した。

5 参加者数 73人

#### 美術館教室「館長の陶芸講座 粘土のふしぎ」

1 実施日 平成28年11月26日（土）

2 会 場 大壁画ギャラリー、美術館入り口

3 講 師 館長 平野庫太郎

4 内 容 粘土の分子構造など科学的なお話の後、やきもの作りの資料映像を鑑賞。土もみ、かたち作りの工程を、館長が実演をまじえてレクチャーした。その後、参加者は土をこねる作業や電動ロクロに挑戦。粘土の特殊な性質を、実体験を通して学んだ。

5 参加者数 16人

#### ワークショップ「砂絵で描こう！～羽子板型～」

1 実施日 平成29年1月7日（土）

2 会 場 レクチャールーム

3 講 師 学芸員

4 内 容 羽子板に妻・マドレーヌの横顔を描いた藤田嗣治にちなみ、ワークショップでは、羽子板型の台紙に大切な人、大切なもの、雪だるまや好きなキャラクターなどを、カラフルな砂を使って思い思いに描いた。

5 参加者数 25人

#### ワークショップ「ランプシェードをつくろう」

1 実施日 平成29年2月4日（土）、5日（日）

2 会 場 にぎわい交流館 AU1階

3 講 師 学芸員

4 内 容 なかいちウィンターパーク「あきた光のファンタジー」をイメージしたワークショップ。様々な形に切った紙などを台紙に貼り付け、透かし部分から貼り付けた飾りが浮かび上がるランプシェードを作成した。

5 参加者数 190人

### (3) ギャラリートーク

#### 企画展「平野政吉コレクションの精華」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成28年4月16日(土)、5月21日(土)、6月18日(土)  
2 会場 ギャラリー1・2  
3 参加者数 28人

企画展「藤田嗣治 無限に深い線」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成28年11月19日(土)・12月17日(土)・平成29年1月21日(土)  
2 会場 ギャラリー1・2  
3 参加者数 62人

企画展「風景のゆくえ」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成29年2月18日(土)・3月18日(土)  
2 会場 ギャラリー1・2  
3 参加者数 22人

特別展「異界をひらく～百鬼夜行と現代アート～」オープニングギャラリートーク

- 1 実施日 平成28年7月16日(土)  
2 会場 ギャラリー1・2  
3 内容 特別展のオープニングセレモニー終了後、出品作家のひとりである美術家・真島直子氏によるオープニング・トークを行った。対極にあるはずの地獄と極楽を地続きと捉え、最果ての地として構成したインスタレーション《JIGOKURAKU》。その水面に口をあける鯉の意味、無限に渦を巻く鉛筆画の制作過程や「生」と「死」についてなど、ひたむきで芯の通った作家の語りに大勢の参加者が耳を傾けた。「生」の世界と「死」の世界の境界、現実と異界の狭間という本展のテーマを印象づけた。  
3 参加者数 62人

特別展「異界をひらく～百鬼夜行と現代アート～」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成28年7月31日(日)・8月14日(日)・8月28日(日)  
2 会場 ギャラリー1・2  
3 参加者数 80人

特別展「さすらいの画家 斎藤真一 ～赫に秘めた想い～」関連ギャラリートーク

- 1 実施日 平成28年9月14日(土)・10月15日(土)  
2 会場 ギャラリー1・2  
3 参加者数 28人

常設展関連 定例ギャラリートーク《秋田の行事》を読み解く

- 1 実施日 毎月第1土曜日・8月3日・4日・5日・6日  
2 会場 大壁画ギャラリー  
3 参加者数 146人

### Ⅲ 調査研究事業

- ・秋田魁新報 ギャラリーと～く 平成28年7月13日  
高橋ともみ 特別展「異界をひらく～百鬼夜行と現代アート～」出品作品解説

- (松井冬子《應声は体を去らない》作家蔵、石田徹也《無題》東京国立近代美術館蔵)
- ・秋田魁新報 ギャラリーと〜く 平成28年7月20日  
高橋ともみ 特別展「異界をひらく〜百鬼夜行と現代アート〜」出品作品解説  
(天野喜孝《百鬼夜行》作家蔵、岡本瑛里《石橋》個人蔵)
  - ・秋田魁新報 ギャラリーと〜く 平成28年9月21日  
佐々木佳苗 特別展「さすらいの画家 斎藤真一 〜赫に秘めた想い〜」出品作品解説  
(斎藤真一《パリの壁》公益財団法人出羽桜美術館蔵、斎藤真一《紅い陽の村》公益財団法人出羽桜美術館蔵)
  - ・秋田魁新報 ギャラリーと〜く 平成28年12月21日  
高橋ともみ 企画展「藤田嗣治 無限に深い線」出品作品解説  
(藤田嗣治《Y夫人の肖像》公益財団法人平野政吉美術財団蔵、藤田嗣治『海龍』より《鏡獅子》個人蔵)
  - ・秋田県生涯学習センター あきたスマートカレッジ連携講座 平成28年12月7日  
佐々木佳苗 「藤田嗣治 無限に深い線」について
  - ・みるかネットギャラリートークリレーセッション 平成28年5月14日  
原田久美子 平野政吉コレクションの精華展の解説  
平野政吉コレクションの解説
  - ・DIC川村美術館 レオナルド・フジタとモデルたち展関連講演会  
原田久美子「藤田嗣治と秋田ーマドレーヌ鎮魂の美術館をめぐるー」  
平成28年10月15日
  - ・「レオナルド・フジタとモデルたち」展図録 平成28年9月発行  
原田久美子 論文「追想のマドレーヌ 藤田嗣治 パリへの郷愁」  
作品解説  
佐々木佳苗 年譜「レオナルド・フジタ年譜」

#### IV 美術ホール運営事業（貸しホール事業）

##### 1. 事業内容

- ①県民ギャラリーの使用者に対し、展示構成を確認、展示作業補助および監視を行った。
- ②美術ホールと展示室の一体的な利用を促進した。
  - ・児童・生徒のセカンドスクールや職場体験の一環として、美術ホールの展覧会と展示室の藤田嗣治作品の連携鑑賞を行った。

##### 2. 実績

総入場者数 39,606人

- ・脈々とGUTA I秋田 これがフジタの遺伝子だべ 4月15日（金）～5月9日（月）  
入場者数：2,370人
- ・2016 秋田県立美術館 県民作品展 10月6日（木）～10月17日（月）  
入場者数：1,867人
- ・第2回あきたアート はだしのこころ 11月9日（水）～11月21日（月）  
入場者数：2,202人
- ・秋田県児童生徒美術展 平成29年1月6日（金）～1月11日（水）  
入場者数：3,262人
- ・秋田公立美術大学卒業研究作品展2017「Re:MAP 地図にない道を行く」  
2月13日（月）～21日（月） 入場者数：1,754人



## V売店事業

### 1. 事業内容

- ・インターネットでの《秋田の行事》額絵販売。
- ・秋田県立美術館ミュージアムショップ運営業者・光風舎へ委託販売。
- ・DIC 川村記念美術館ミュージアムショップにポストカード販売。

### 2. 実績

・売り上げ総計                    28品      4,108枚                    実績の詳細は、資料1のとおり

#### 内訳

《秋田の行事》レプリカ	654枚
《秋田の行事》額絵	54枚
クリアーファイル	768枚
絵はがき24種	2,632枚
その他	1枚

※事業の詳細は、付属明細書のとおり